



OPENQR™
Verify Before You Open
— Pre-Reference Verification for Trust —

01. なぜ、今やるのか？ | 就実学園がOPENQR™を「今やるべき」と判断した理由

各項目の判断した理由

項目	理由
1. 幼稚園・小学校・中学校 高校・大学でのQR使用	校内連絡、配布物、学習コンテンツなどで QRが日常的に使われており、利用頻度が高い
2. 保護者・児童（生徒）の不安	「事故が起きてからでは遅い」 という直感的・感情的な不安が常に存在する
3. 教育機関としての責任	教育機関は 説明責任・管理責任が極端に重く、事後対応では許容されない
4. 従来対策の限界	注意喚起や指導など 「人の判断に依存する対策」は、成立しにくい
5. OPENQR™との適合性	就実学園は、教育機関として 「事故が起きる前に、構造で止めること」を選択した

※ これは新しいセキュリティ導入ではなく、教育現場における「意思決定事項」のアップデートである。

02. リンクを開く前に確認 : Verify Before You Open !

[Before : 現在]

1 (参照情報 : QR / URL)



2 (即時参照)



3 (🔥 参照汚染)



4 (🔥🔥 事後対応)



[After : OPENQR™]

1 (参照確認 : QR / URL)



2 (検証開始)

Verified in OPENQR ✘



3 (自動検証 : リンク先)



4 (✓ 検証済み参照)



03. 何を検証しているのか | 教育現場で必要な「3つの事前確認」

検証範囲 (教育現場PoC)

検証項目	何を確認するか	教育現場での意味
1. 登録検証 (Registry Check)	QR / URL が「システム / 組織」として 正式に登録・承認された参照 であることを確認	不明・非公式・シャドー参照の 業務利用を防止
2. 完全性検証 (Integrity Check)	QR内情報を登録以降 — 参照先が 改変・差し替えされていないこと を確認	サイレント改変・リンク差し替え・ 改ざんを参照前に検知
3. 文脈検証 (Context Check)	参照情報が 想定された端末・業務・手順の文脈 と一致していることを確認	正しいリンクが誤った場所・工程で 使われることを防止

※ 教育現場では：

児童・生徒や保護者の個人の判断力に依存した対策には限界があるため、**参照**という行為そのものを事前に確認できる構造が求められる。

04. 成果指標 (KPI) | PoC判断のための評価軸

PoC 評価指標

KPI	測定内容	重要性（判断の意味）
1. 不正参照検知率	参照を「開く前」に検知された Not Safe(不正・未検証)参照の件数・割合	事故が発生する前に、どれだけのリスクを 事前に除去できたかを示す
2. 稼働遅延への影響	参照1件あたりに追加される 検証処理時間(レイテンシ)	セキュリティ強化が稼働スピードを 阻害しないことを確認する
3. 参照可視化・網羅率	業務で利用される参照のうち 可視化・追跡可能となった割合	ガバナンス、監査性、将来の運用・ 制度判断を可能にする

※ ステップ1：本PoCでは、既存のQRコード / URLの内容は、一切変更しません。

OPENQR™は「QRの中身を書き換える技術」ではなく、参照という行為を“リンクを開く前”に確認するレイヤーです。

※ ステップ2：本PoC終了後、必要に応じて、新規に作成するQRコード・配布物・Web掲載物についてのみ、
OPENQR™を経由する設計へ段階的に移行することが可能です。

05. PoC 条件 | 教育現場で無理なく「今、実行できる」と判断した実施条件

PoC実施範囲・条件（教育現場での実行前提）

項目	定義
1. 実施範囲	1つの端末、または1つの稼働フローを対象 (例：SOP、外部ベンダー指示、アクセス手順 等)
2. 連携方式	既存アプリケーションをほぼ変更せずに 実装可能なAPIベースで実現する「参照内容の事前確認」
3. 実施期間	90 日間
4. 成果物	検証ログ・Safe / Not Safe 判定結果・PoC総括レポート
5. 判断結果	本格展開・条件調整・終了のいずれかを判断するための明確な材料

※ 注記: 対象とする稼働フローを1つ選定し、PoC範囲を確定するための 初回20分程度の事前すり合わせミーティング



ZeroBankX